

第 49 回日本リハビリテーション医学会北海道地方会

ならびに

専門医・認定臨床医生涯教育研修会

<プログラム・抄録集>

日時:令和 6 年 4 月 20 日(土) 13:00~

会場:旭川医科大学 看護学科棟 大講義室 (旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1 番 1 号)

担当幹事:医療法人 喬成会 花川病院 生駒 一憲

教育講演

1 「摂食嚥下障害診療アップデート」

医療法人沿志会 へきなん中央クリニック

小川 真央 先生

2 「チームで取り組む包括的呼吸リハビリテーションの最前線」

東北大学大学院医学系研究科内部障害学分野・教授

東北大学病院リハビリテーション科・科長

海老原 覚 先生

プログラム

教育講演 1 (13:00～14:00) 座長: 及川 欧 (旭川医科大学病院リハビリテーション科)

「摂食嚥下障害診療アップデート」

医療法人沿志会 へきなん中央クリニック 小川 真央 先生

教育講演 2 (14:00～15:00) 座長: 生駒 一憲 (医療法人 喬成会 花川病院)

「チームで取り組む包括的呼吸リハビリテーションの最前線」

東北大学大学院医学系研究科内部障害学分野・教授

東北大学病院リハビリテーション科・科長 海老原 覚 先生

一般演題(15:20～) 座長: 土岐 めぐみ (札幌医科大学医学部リハビリテーション医学講座)

1. 当院回復期リハビリテーション病棟に入院した 85 歳以上の脳損傷患者における経管栄養離脱に
関与する因子

小川 太郎, 松尾 雪絵, 築田 浩幸, 井上 道夫, 横串 算敏, 橋本 茂樹¹⁾

1) 札幌溪仁会リハビリテーション病院 リハビリテーション科

2. 桑園認知症ケア研究会の活動報告(1)

橋本 茂樹¹⁾,

1) 札幌溪仁会リハビリテーション病院

3. 能登半島地震 DMAT 活動報告 ～業務調整員・理学療法士として～

三田村 信雄¹⁾, 及川 欧²⁾, 大田 哲生²⁾

1) 旭川医科大学病院リハビリテーション部 2) 旭川医科大学病院リハビリテーション科

4. 旭川医科大学病院リハビリテーション部門における COVID-19 感染者 500 名への取り組み

及川 欧¹⁾, 高橋 佑弥²⁾, 村岡 法彦²⁾, 呂 隆徳²⁾, 石田 健一¹⁾, 遠藤 寿子¹⁾, 大田 哲生¹⁾

1) 旭川医科大学病院リハビリテーション科 2) 旭川医科大学病院リハビリテーション部

一般演題抄録

1. 当院回復期リハビリテーション病棟に入院した85歳以上の脳損傷患者における経管栄養離脱に関与する因子

小川 太郎¹⁾, 松尾 雪絵¹⁾, 築田 浩幸¹⁾, 井上 道夫¹⁾, 横串 算敏¹⁾, 橋本 茂樹¹⁾

1) 札幌溪仁会リハビリテーション病院 リハビリテーション科

【方法】2017年6月～2023年5月に入院時経管栄養だった85歳以上の脳損傷患者を後方視的に解析した。【結果】対象68例(女性48男性20)。年齢 89.1 ± 2.7 歳。経管栄養離脱19例(27.9%)。性別、総タンパク、アルブミン、BMIに有意差なく、入院時認知FIM(9.8対7.0, $p=0.042$)に有意差あり(合計FIM, 運動FIMは境界域)。1ヶ月後の合計FIM35.8対21.7($p=0.006$)、運動FIM23.2対14.4($p=0.012$)、認知FIM12.5対7.6($p<0.001$)で有意差あり。入院時/1ヶ月目のFIMと経管栄養離脱でのROC曲線は入院時より1ヶ月目の方が良好(AOU0.788-0.840)で合計FIM23/24をカットオフ値として感度0.737、特異度0.857。【結論】超高齢脳損傷患者の嚥下障害では1ヶ月目のFIMで予後予測が可能であることが示唆された。

2. 桑園認知症ケア研究会の活動報告(1)

橋本 茂樹¹⁾,

1) 札幌溪仁会リハビリテーション病院

2015年に「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～(新オレンジプラン)」が策定された。2019年の「認知症施策推進大綱」、2023年の認知症基本法が施行された。地域での共生できるまちづくりが大きくクローズアップされるに至る。

札幌市中央区は人口約24万人、高齢化率24.2%(札幌28.1%)、10区のうち人口増加数、単身で生活する高齢者の割合が1位となっている。桑園地区は中央区にあり、札幌駅に近く、区の北西に位置する人口約3万の地域(高齢化率22.1%)である。この地域には市立大学、市立病院等があり中央区のなかでも特に人口が増えている地区である。この桑園地区が認知症の住民にとって住みやすい地域になることを目指し、地域から世話人を集め2022年11月に「桑園認知症ケア研究会」を立ち上げ、活動を開始した。今回は活動報告(1)として、2024年3月までの活動を報告する。

3. 能登半島地震 DMAT 活動報告 ～業務調整員・理学療法士として～

三田村 信雄¹⁾, 及川 欧²⁾, 大田 哲生²⁾

1) 旭川医科大学病院リハビリテーション部 2) 旭川医科大学病院リハビリテーション科

【はじめに】令和6年度能登半島地震の際 DMAT（災害派遣医療チーム）の一員として活動したのでその内容について報告する。【内容】DMAT は医師、看護師、業務調整員からなり災害時に医療的支援を行う。今回石川県より北海道庁に派遣要請があり、旭川医大第1次隊として出動。1月9日、輪島市役所内の DMAT 輪島調整本部で市内の医療ニーズの把握、福祉施設、避難所のスクリーニング、患者搬送体制の確立などを開始した。福祉施設は建物の崩壊、断水などから市外へ全避難が必要な状態で陸上自衛隊の支援を受け搬送した。筆頭演者は業務調整員の立場であるが、理学療法士でもあることから、避難所で麻痺のある被災者にマッサージをし、弾性ストッキング装着の指導も行いリハビリテーション医療の観点から関与することができた。【考察】DMAT は急性期の対応として位置づけられているが、リハビリテーション職が関与することで生活に入り込んだ対応ができる強みがあると考えられる。

4. 旭川医科大学病院リハビリテーション部門における COVID-19 感染者 500 名への取り組み

及川 欧¹⁾, 高橋 佑弥²⁾, 村岡 法彦²⁾, 呂 隆徳²⁾, 石田 健一¹⁾, 遠藤 寿子¹⁾, 大田 哲生¹⁾

1) 旭川医科大学病院リハビリテーション科 2) 旭川医科大学病院リハビリテーション部

【はじめに】当院では現在まで 600 名弱ほどの COVID-19 感染者に対しリハビリテーション治療を行ってきた。治療が既に終了している、最初の 500 名へのリハビリテーション取り組みの特徴について報告する。【方法】希望者による 2 名体制で、COVID-19 感染者へのリハビリテーション専従者 (PT,OT,ST) を決め、フル PPE (Personal Protective Equipment ; N95 マスク、手袋、キャップ、ガウン、フェースシールド) 装着のもとで施術した。時には同時に 13 名が発病したタイミングもあり、最初に医師が入って全身状態のトリアージを行い、安全に取り組みそうな患者につき専従者に依頼する形を取った。【結果】2020 年 12 月 6 日～2023 年 4 月 18 日までに、合計 500 名の COVID-19 感染者をリハビリテーション部門で診た。専従者が施術したのは 227 名 (45.4%)、医師のみが指導したのは 273 名 (54.6%)。医師のみが指導した 273 名のうち、198 名 (72.5%) には RSMT 変法 (特殊な心拍変動バイオフィードバック法) を行った。発表当日、この RSMT 変法について若干解説する。